

第5回角田市長期総合計画審議会会議報告書

1. 日時 令和3年6月14日（月）午前10時00分から午前11時50分まで
2. 場所 角田市市民センター201会議室
3. 出席者（別添出席者名簿のとおり）

（1）角田市長期総合計画審議会委員	21名
（2）策定本部	5名
（3）事務局	6名
（4）角田市第6次長期総合計画策定支援業務委託業者	5名
4. 会議内容（概要）

1 開会

2 会長あいさつ

総合計画はだいぶ仕上がってきておりますが、まだまだ皆さんのご意見が入っておりませんので、これからもっと皆さんのご意見を反映していくという話になっていくかと思っております。本日の会議はターニングポイントになりますので、忌憚のないご意見をお聞かせください。よろしくお願いいたします。

3 市長あいさつ

本日はお忙しい中、ご出席を賜りまして本当にありがとうございます。加えまして皆様方には、常日頃より市政運営にご尽力を賜りまして心より感謝を申し上げます。

本日は、前回、構成をお示ししました基本構想の案と、それにつながる重点プロジェクトの考え方、また、基本計画の構成案について、事務局よりご説明をさせていただきます。いよいよこれまでに見出した本市の抱える課題を踏まえ、基本理念に基づいた具体的な取組みについて検討していく段階となって参りました。特に重点プロジェクトにつきましても、基本構想に掲げる本市の都市像の実現に向けて重点的かつ優先的に取り組むべき項目を示すものであり、今後10年間の本市の取組みの核となるものがあります。

また今回は、前回の皆様方のご意見を参考とさせていただきながら、私の市長としての思いも込めた都市像のイメージについてもまとめましたので、重点プロジェクトの案と併せましてお示しさせていただきます。

都市像や重点プロジェクトといった今後の方針、まちづくりの方向性が決まる重要な会議となりますので、是非とも忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

そして今回は、私をご用意させていただきました資料『「市民と共につくり実現する長期総合計画」－市長が思う第6次長期総合計画のコンセプト－』の概略についてお話をさせていただきます。

これまでの議論の中で、市長の思う第6次長期総合計画の在り方については、口頭でのみお示してきましたが、改めて書面でお示したうえで、これを議論の土台に据えて、長期総合計画の策定における今後の進め方・方向性を、皆さんでしっかりと確認していかなければならないとの思いから、今回、こうした資料をご用意させていただきました。

冒頭には、これまでの長期総合計画期間中の角田市の歴史と現状について記載しています。戦後、豊かさを目指す中で、開発型の地域振興策が進められてきましたが、時代の大きな動き、そして世界的にも様々なことが行き詰まりをみせており、角田市にもそうした影響が及んできています。従来の方針を転換しないままでは、角田市は存在し得ないのではないかとといった危機感を持っております。

大きな時代の変革の中にあって、既に世界的な流れは動き出している状況です。例えば、国連で採択されたSDGsの17のゴールでは、物質的な豊かさから精神的な豊かさにシフトしており、格差社会をなくす、一極集中を是正していくというような内容となっています。

そして角田市が進むべき方向もそういうところであろうと思います。市民の皆様や我々行政が思っている以上に、時代の流れというものは劇的に変化していくだろうと思っておりますので、これからの計画は、その変化に向けての「準備の10年」、「始まりの10年」にしていきたいと思っております。

また、物質的な豊かさから精神的な豊かさにシフトしていく、物質的・経済的な豊かさよりも、幸福・満足であるといったことを優先して施策に取り組んでいく必要があります。そういった取組みを進めていくための長期総合計画に示なくてはならないということに記載しています。

現在、幸福度や満足度については、大変重要なものとして研究がなされ、各自治体などでもすでに実践が始まっております。そうした中で、市民の幸福感を支える大切な要素は、社会の要請に応えているという充実感や誇り、自己実現、自己成長、何よりも他者とのつながりの中で支えている、支え合っているといったことだということが分かってきております。それをしっかりと実現させていくのが、角田市のこれから進む道だろうと思っております。

よく「市民力」という言葉を使わせていただきますが、地域の課題について主体的に考えて取り組む市民の行動力を「市民力」だとすれば、先ほど言いました幸せの要素を実現しようとする活動そのものが「市民力」であると思っております。その「市民力」を連携させ、つなぎ合わせて大きくしていくことで、幸せなまちをつくっていききたいと考えております。

本日お示しする重点プロジェクトやまちづくりの基本理念は、それを具現化するも

のであり、そういった要素を3つの項目にまとめております。一つ目は、人づくり、二つ目は、ともに支え合って生きていく社会が大切だということ、三つ目は、地域の自然や歴史、文化、産業、暮らしなどに誇りをもって未来へつなげていくという営み、この3つを大きく取り上げさせていただきました。これが今回の長期総合計画で示すまちづくりのコンセプトと申し上げてよろしいかと思っております。

長期総合計画は、行政と市民の皆様が共につくっていくということ、また、そのプロセスが大事だと思っておりますので、是非ともそのプロセスに皆様にも関わっていただき、「市民の皆様と共につくる計画」にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

私は、審議会に諮問している立場でありますし、私がいることで皆様の議論の邪魔をするということもあろうかと思っておりますので、今後は、審議会への出席は控えさせていただきますが、委員の皆様から、市長に出席してほしいという要請があったときは、出席をさせていただきたいと思っております。

以上で、本日の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

※ 黒須市長は挨拶後退席。

4 報告

○ 活動経過報告【資料「角田市第6次長期総合計画策定経過」】

資料配布のみとし、説明を割愛。このことに関する意見等はなし。

5 議事

角田市長期総合計画審議会条例第5条第1項の規定に基づき、柳井会長が議長となり議事進行を行った。

(1) 第6次長期総合計画の策定に関する意見への回答（案）について【資料1】

事務局（齋藤企画調整係長）より、【資料1】に基づき説明を行った。このことに関する意見等はなし。

(2) 第6次長期総合計画基本構想（案）について【資料2】【資料2-2】

事務局（木村まちづくり政策課長）より、【資料2】及び【資料2-2】に基づき説明を行った。このことに関する意見等は以下のとおり。

〔毛利委員〕

市長の言う「市民力」をどうしていくのか。委員の皆さんも「市民力」で色々と活躍をされてきた方々だと思うし、自分も色々と取り組んできたが、「市民力」をどう評価して次につなげていくのか。これまでやってきたことを基盤にしないと、また一

からでは、これまでの活動は何だったのかと思う。個人や団体など様々な活動の中で「市民力」が発揮されており、自分もこれまでに市に対して活動の報告を行ってきたが、そのことについて市からの吸い上げはなかった。資料に行政との連携とあるが、紙面上ではなく、そういった部分をもっと強化していかなければならない。

また、「市民力」は人間の心、命であると考え。市長の挨拶にもあったが、心の豊かさを広めていくためのプロジェクトが必要ではないか。心、命は感動で動くが、感動が足りないと感じる。心の動きを計画の中に入れて欲しい。

[木村まちづくり政策課長]

ただ今の毛利委員のご指摘に関しては、まちづくりの基本理念に入れ込むべきか、本日の重点プロジェクトの議論の中でもう少し落とし込みができるのではないかと考えている。その辺りも含めて議論していただきたい。

[齋藤(善)委員]

毛利委員から感動が不足しているという話があったが、これは課題に対するアプローチの仕方なのではないかと思う。現状から見えてきた課題から考えていくとあまり感動が得られないのではないか。一方で、あるべき姿に対して現状を踏まえて進めていくと、達成すべきところが感動になるのではないか。現状から捉えた課題と、あるべき姿とのギャップを整理していくことによって良い計画ができるのではないかと考える。

[木村まちづくり政策課長]

齋藤(善)委員からのご意見のとおりと考えている。ご意見にあった考え方がいわゆるバックキャストिंगといわれる、目指すべき理想の姿を描いてそこに行くために何をすべきなのかという考え方である。今後も十分に参考にしながら、計画に反映していきたい。

(3) 第6次長期総合計画基本構想に掲げる重点プロジェクトについて【資料3】

事務局（木村まちづくり政策課長）より、【資料3】に基づき説明を行った。このことに関する意見等は以下のとおり。

[堀米委員]

まちづくりの基本理念において、市民の力を活かすということを第一に掲げているというところは、今までと一番大きく変わっているところであると思う。先ほど毛利委員からも指摘があったように、市民活動に対して行政がどのように関わっていくのかということが案外難しく、正直、市民からすると行政は冷たいという感想がある。市民アンケートの結果を見ても、行政に対する不満が高まっていることが分か

る。市民と行政がどのように関わっていくのかというところが一番難しく、見えにくいところである。それを一番に掲げたということは、庁内でどのような議論がなされ、どのように進めようとしているのか、具体的な話が出ているのか、お聞かせいただきたい。

[木村まちづくり政策課長]

これまでも市民協働ということでテーマを掲げて進めてきたが、そこでの反省も踏まえて、これからどのように関わっていくのが良いか、進めていくべきかという議論はこれからということになるかと思う。

この重点プロジェクトに関しても、庁内でプロジェクトごとに横断的なチームを作り、その中で、本日のご意見を踏まえて、どのような施策を展開していくべきなのか、議論を進めていく予定である。

[堀米委員]

市民の力を活かすというような言葉は、「市民が主役のまちづくり」や「協働のまちづくり」など、角田市ではここ20年くらい使われてきたが、どのように進めていくと歯車が噛み合い、互いに良い方向に向かっていけるのかということがなかなか見出せないでいるのが現状である。その際に具体的な例を引っ張っていても、全部一気にはできないし、すぐにもできない。まずは、評価基準を共有していくところからやっていかなくてはならないと考える。

[木村まちづくり政策課長]

過去のような反省も踏まえた上で、これからの10年で中心的に関わることとなる中堅の職員でプロジェクトチームを結成する予定であり、その議論の中でご指摘の部分についても落とし込んでいきたい。

[柳井会長]

官民連携には連携のレベルがある。仮に民だけの取組みをレベル1とするなら、民がリードしながら官が支援するのがレベル2、逆に官がリードしながら民が協力するのがレベル3、官だけで行うのがレベル4となる。これらの連携の度合いを見極めて制度化していくというのが一番大事であると思う。

もう一つは、官民連携を進めていくとやがて官の機構改革につながっていくということである。つまり、「市民力」の効果が出てくると、官の仕事のアウトソーシングや、予算の節約、別の仕事の出現等に影響を与えるからだ。これが今回の重点プロジェクトの一番の核心部分であると理解している。

[武智委員]

先ほど「協働のまちづくり」という話も出たが、これまでの「協働のまちづくり」と、「市民力」によるまちづくりは何が違うのか。人づくりが大事であるということは、第5次長期総合計画までずっと言われてきている言葉だと思う。市役所に入る方は試験や面接には長けているのだろうが、今求められているのは何かに秀でた人材であるとする。採用時点でそういう人のための枠を設けて人材を広げるといようなことが、根本的に大切なことではないかと思う。人事評価も含め、自分から進んで取り組むような職員を育てていく仕組みが必要ではないか。やはり「市民力」といっても、事務的なことなど市の職員が動くことも多いと思う。職員の意識改革、あるいは秀でた能力を見越しての採用、そして人事評価など、そのあたりを踏まえて人づくりを進めていくのが良いのではないかと思う。

[木村まちづくり政策課長]

これから基本理念に据える「市民力」に関しては、これまで取り組んできた「協働のまちづくり」よりももう少し広い意味合いと考えている。「協働のまちづくり」は、地区振興協議会という枠組みがあり、そこ行政が協働で地域づくりを進めていくという流れである。これからもその取組みは変わらないとは思いますが、「市民力」ということになると、それに加えて人材育成の分野にまで影響してくるような考え方とっており、「協働のまちづくり」よりは少し間口の広い意味で捉えている。

ただ、もう少し整理をさせていただき、実際の計画では、「市民力」の考え方や取り組み方について、市民の皆様に理解していただけるような表現にしていきたいと思っている。

[中村総務部長]

職員の育成については、大変難しくなってきた。市民とどのように向き合っていくかは、研修や実際に膝を突き合わせていく中で育っていくものとする。そういう経験を積みながら、計画にも携わることで、自分も計画づくりに携わっているという意識を高めていきたい。

[砂金委員]

まちづくりの基本理念に「地域共生」を追加したという説明があったが、格差社会がクローズアップされ、格差が広がっている今においては、支え合いや助け合える環境をつくるということが、非常に大切になってくるのではないかと思う。

私は社会福祉協議会の委員でもあるが、生きづらい生活をしている方々を何とかしなければならぬという話し合いがよく行われる。やはり郡部などを考えると自治センターなども大いに活用して、市民の気持ちを取り入れていくということを考えて支援していただきたいと思っている。

[木村まちづくり政策課長]

「地域共生」については、初めから考え方は持っていたが、まちづくりの基本理念を整理していく中で、重点プロジェクトに位置付ける形の方が分かりやすいだろうということで、はっきりと示したところである。

地域共生社会というワードは、厚生労働省の考え方が多く示されていると思うが、厚生労働省で示している地域共生社会とイコールではなく、それも包含される形で広い意味での支え合い、様々な主体が支え合う、あるいは分野によっては企業の皆さんと支え合うといったこともあり得ると考えている。また、分野によって支える側と支えられる側の立場が変わるといったこともあり得る。

今後、高齢化率が上昇していったときに、高齢者の方々が全て支えられる側にいるわけではないと考えている。元気に活動する高齢者の方ももちろんいるわけで、そうした方が支える側に回っていくといった施策の展開も必要と考えているので、そういう意味での「地域共生」と捉えていただけるとありがたい。

[毛利委員]

共生に対する支援が当たり前にならなくてはいけないと思う。

また、市民力に関連して、行政の方も様々なところでボランティアなどの活動をしているが、その際に会話をしたときと、行政マンとして会話をしたときでは違う形で答えが返ってきて非常に残念に感じることもある。市民の立場を理解する、「市民力」につなげていっていただければ伝わってくるのではないかな。支援は当たり前という社会にしていっていただきたい。

[遠藤(恵)委員]

市民側からすれば、やはり声を届けたいという思いがある。マッチングあるいはコンシェルジュ、コーディネーターのようなセクションがあれば、市民は声が届けやすいのではないかな。今までの業務をこなしながらというのはなかなか難しいと思っているので、旧来型の支援だけではなく、次に進もうということであれば、水先案内のようなセクションがあれば良いのではないかなと思う。

[木村まちづくり政策課長]

市民の皆さんの声がなかなか行政に届かないという指摘に関しては、我々も十分に反省しなければならない。その課題を解決する上で、行政の組織内に市民の声を聞く専門セクションを設置するというのは非常に重要な提案だと思っている。そういった具体的な内容については、基本計画に必要に応じて位置付けていく形になるのかなと思うので、検討の参考にさせていただきたい。

(4) 第6次長期総合計画基本計画の構成案について【資料4】

事務局（齋藤企画調整係長）より、【資料4】に基づき説明を行った。このことに関する意見等は以下のとおり。

〔堀米委員〕

まちづくりの基本理念と重点プロジェクトが、この計画とどのように関係してくるのかということが全然分からない。「市民力」や「地域共生」、「地域資源フル活用」といった基本理念が、どのように影響してくるのが見えないが、いつ頃見えるようになるのか。

一つひとつの基本理念と重点プロジェクトがどのように関わってくるのかというイメージが掴めなかった。今までの長期総合計画だと結局最後は分野別の個別の施策が並び、実施計画の形になる。【資料2】の地域情勢の分析や理念などの部分が非常に立派に記載されているが、よくよく見てみれば、できることはほんの少しであったというようなところで終わってしまう。それでは、ここまで大風呂敷を広げて用意してきたことが、最後に「なんだこんなものか」ということになってしまう懸念があったので質問した。

〔齋藤企画調整係長〕

どのような形で見える化を図っていくかについては、今後、改めて検討していく。

〔齋藤(善)委員〕

基本計画の構成について、「方向性・目指す姿に向けた課題」に続いて「施策の方向性・目指す姿」という形で示されているが、例えば、第1章の安全・安心という章に対して、まずは、達成された場合にどのような姿になっているのかという目指す姿を最初に記載し、それに対して現状分析やなりたい姿とのギャップ、課題は何かといった整理をした方が良いのではないかと。

〔齋藤企画調整係長〕

改めて検討させていただきたい。

6 その他

事務局（木村まちづくり政策課長）より、審議の内容を踏まえ、分科会（グループ討議）の開催についての提案を行った。

〔木村まちづくり政策課長〕

重点プロジェクトについて、審議会と並行して庁内でも議論を進めていくという日程とさせていただくため、7月開催予定であった審議会を8月の開催とさせてい

ただきたいと考えている。その上で、本日、皆さんからご意見をいただいた中で、まだまだ発言し足りないが時間がなくて発言できないという方も中にはいらっしゃると思う。そうしたことも踏まえ、当初の予定ではもう1回開催する予定にしていたこともあるので、もう少し少人数化した形、分科会のような形で意見を出していただいた方が皆さんいろいろ意見も出しやすいのかと思うがいかがか。

〔柳井会長〕

事務局から分科会のような形で深掘りした議論をしてはどうかとの提案があったがどうか。

⇒委員承認。

〔堀米委員〕

それにあたっての要望だが、これまで民間企業の方が、地域社会にどういう風に関わっていきけるかということと、行政に対してどういう役割を果たして欲しいのかという率直な話し合いがなかなかできなかった。ここに参加している企業に限らず、民間資本が様々な形で地域づくりに関わってくるということが起きている。角田においても今後の可能性を考えると、非常に重要な視点だと思う。民間資本、民間企業がどのように地域づくりに関わっていくのかということについて、是非、ご意見を聞いてみたいので、そうした話し合いが行われたら非常に良いのではないか。

もう一つは、教育についてである。人づくりについても、今後非常に重要な役割を果たしていくと思うので、その点に関しても皆さんの意見を聞く時間があっても良いのではないかと思う。

〔柳井会長〕

二点要望が出たので、事務局で配慮の上で、チーム編成についてはよくその辺りを留意していただきたい。

〔堀米委員〕

私はこれまでこの会議に出席してきて、誰に向かって意見を言っているのか、責任の所在がよく分からないという感想を持っている。これまでの長期総合計画は、市民の声を聞いたという形を作るための形式をとっていた。そうした中で作られた、誰が作ったか分からないような計画というのが今まで重要だったということだが、そういう時代は終わったのではないか。市長のリーダーシップの下に次のビジョンを作っていくというような形にして良いのではないかと考える。市民の声を聞いたということと、立派なコンサルが調査して作ったというような権威付けはほらないのではないか。肩肘張らずにみんなで率直な意見を出して作ったというような長期総合

計画に変えていって良い時代ではないかと思うので、市長にも出席してもらった方が良いと思うし、率直な意見を出す場にしてもらいたい。

[木村まちづくり政策課長]

条例で定められた審議会ということもあるので、この件については、持ち帰り市長と相談の上、対応したい。

7 閉会

第5回角田市長期総合計画審議会委員出席者名簿

令和3年6月14日

No.	役職	氏名	所属等	構成区分	備考
1	会長	柳井 雅也	東北学院大学 教授	知識経験者	
2	副会長	安藤 由紀子	角田市医師会	知識経験者	欠席
3	委員	遠藤 恵美子	角田光の子保育園 園長	知識経験者	
4	委員	遠藤 摂子	社会福祉法人 あけの星会 理事長	知識経験者	欠席
5	委員	遠藤 尚志	大河原地方振興事務所 地方振興部長	知識経験者	
6	委員	上條 徹	アイリスオーヤマ(株) マネージャー	知識経験者	
7	委員	菊地 恵美子	みやぎ仙南農業協同組合 理事	知識経験者	
8	委員	齋藤 善宏	日立Astemo(株) 人財統括本部 HRシェアードサービス部 宮城総務課 課長	知識経験者	
9	委員	菅原 満	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 角田宇宙センター 角田管理課 課長	知識経験者	
10	委員	戸田 宏士	戸田宏士司法書士事務所	知識経験者	欠席
11	委員	一柳 知秋	七十七銀行 角田支店 支店長	知識経験者	
12	委員	堀米 荘一	合同会社あぐりっとかくだ 代表社員	知識経験者	
13	委員	松本 篤志	連合宮城仙南地域協議会 角田地区会議 議長	知識経験者	
14	委員	砂金 甚一	角田市社会教育委員	公共的団体の役員	
15	委員	遠藤 清子	角田市民生委員児童委員協議会 西根地区会長	公共的団体の役員	
16	委員	小野 孝子	角田市統計調査員協議会 会計	公共的団体の役員	
17	委員	小野 陽子	角田市各種女性団体連絡協議会 会長	公共的団体の役員	
18	委員	加藤 泰彦	角田市商工会 会長	公共的団体の役員	
19	委員	日下 三郎	角田消防署 署長	公共的団体の役員	
20	委員	齋藤 勤	角田市環境衛生組合連合会 前会長	公共的団体の役員	欠席
21	委員	島津 恵美	角田市民生委員児童委員協議会 主任児童委員部長	公共的団体の役員	
22	委員	高野 絹子	角田市商工会 女性部 副部長	公共的団体の役員	欠席
23	委員	高橋 輝昭	角田市行政区長連絡協議会 会長	公共的団体の役員	
24	委員	武智 照道	角田市行政経営推進委員会 委員長	公共的団体の役員	
25	委員	毒島 弘美	角田市教育委員会 委員	公共的団体の役員	欠席
26	委員	毛利 良子	角田市芸術文化振興会 顧問	公共的団体の役員	
27	委員	渡邊 峰雄	角田市スポーツ協会 理事長	公共的団体の役員	

第5回角田市長期総合計画策定本部・事務局出席者名簿

令和3年6月14日

策定本部

No.	役職	職	氏名	備考
1	委員	総務部長	中村方彦	
2	委員	市民福祉部長	高橋正明	
3	委員	産業建設部長	小湊洋司	
4	委員	教育次長	玉渕和紀	
5	委員	財政課長	大槻信一	

事務局

No.	職	氏名	備考
1	まちづくり政策課 課長	木村信幸	
2	まちづくり政策課 課長補佐	齋藤学	
3	まちづくり政策課 企画調整係 係長	齋藤謙	
4	まちづくり政策課 企画調整係 主査	渡辺寛大	
5	まちづくり政策課 企画調整係 主査	安達宗平	
6	まちづくり政策課 企画調整係 主事	佐々木あづさ	

角田市第6次長期総合計画策定支援業務委託業者

No.	職	氏名	備考
1	七十七リサーチ&コンサルティング(株) 調査研究部 部長	山下勝善	
2	七十七リサーチ&コンサルティング(株) 調査研究部 担当部長	佐藤渉	
3	七十七リサーチ&コンサルティング(株) 調査研究部 上席研究員	木村暢男	
4	七十七リサーチ&コンサルティング(株) 調査研究部 上級研究員	皆川乾介	
5	七十七リサーチ&コンサルティング(株) 調査研究部 上級研究員	片桐拓也	